



【2016年度全国大会のご案内】最終

すでにご案内の通り、今年度の全国大会は、2017年2月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり、神戸山手大学にて実施いたします。テーマは「観光立国ニッポン 訪日旅客4,000万人&オリパラ2020～観光ホスピタリティ教育は何をすべきか～」です。

初日の基調講演・シンポジウムは、上記テーマを掲げ、産官学からの提言等、参加者の皆様のご参考になるものと存じます。お誘いあわせの上、ご参加下さいますようお願いいたします。出欠ハガキの返送がおすすめでない方は、至急投函をお願いいたします。

なお、初日の研究・教育実践発表は、基調講演の前と、シンポジウムの後の、2部に分かれております。

1. 大会概要

(1) 開催日:2017年2月25日(土)・26日(日)

(2) 開催地:神戸山手大学(メイン会場は4号館)

〒650-0006 神戸市中央区諏訪山町3-1

最寄駅:JR神戸線元町駅、阪神本線元町駅、
阪急神戸高速線花隈駅から徒歩約15分

(3) プログラム概要

[1日目2月25日(土)]

11:00~12:30 理事会(4号館小教室)

12:30 受付開始(4号館1F共同研究室)

13:00 開会式(これ以降の会場は4号館4301教室)

13:10~13:50 研究・教育実践論文発表

- ファンとファンツーリズム受け入れ地域の相互作用—アイドルグループのメガコンサートを事例として—(臺純子他)
- ニッポンの「おもてなし」の品質管理に向けて:ホスピタリティ教育における体験型学修とSERVQUALの再評価(岡達哉)

14:00~15:00 基調講演

「観光立国ニッポン 訪日旅客4,000万人&オリパラ2020～観光ホスピタリティ教育への期待」

国土交通省近畿運輸局観光部長 福西謙氏

15:10~16:50 シンポジウム「大学における観光ホスピタリティ教育の新たな取り組み」

モデレーター:共栄大学客員教授、本学会会長 鈴木勝氏

パネリスト:愛知県観光局長 加納國雄氏

JTB 首都圏・ロイヤルロード銀座/早稲田大学大学院後期博士課程 松村智恵氏

(株)和平旅行代表取締役/中国国家観光局(大阪)・観光アドバイザー 村上心一郎氏

横浜商科大学教授、本学会副会長 宍戸学氏

神戸山手大学教授 西村典芳氏

17:00~18:00 教育実践報告

- バリアフリー観光の実践活動を通じた学生へのホスピタリティ教育(捧富雄)
- 地域観光研究ゼミナールの教育実践におけるPBLの試行—和歌山県田辺市本宮町を対象として(峯俊智穂他)
- 地域課題解決(商店街の振興策)に向けたアクティブラーニング型の学習(浅岡柚美)

18:10~19:30 懇親会(1号館食堂)

[2日目2月26日(日)]

9:15~ 受付開始(4号館1F共同研究室)

9:30~10:20 ワークショップ話題提供(4号館4301教室)

コーディネーター:小畑力人(追手門学院大学)

話題提供:森山正(神戸山手大学・前阪南大学)

大串恵太(追手門学院大学)

小野田金司(神戸山手大学)

10:30~12:00 ワークショップ分科会(4号館小教室)

第1会場「ゼミナール活動の成果をいかに設定するか」

第2会場「アクティブラーニンググループ学習における課題」

第3会場「長期インターンシップの運用における課題」

12:10~12:50 ワークショップ報告(4号館4301教室)

12:50~12:55 閉会式(同上)

※ ワークショップに参加される方は、ワークショップ話題提供からご参加ください。

※ プログラムの内容・時間等は変更することがありますので、ご了承下さい。

2. 大会参加費

参加費:正会員2,000円、準会員・大学院生1,000円、一般3,000円、学部生無料

懇親会:正会員・一般4,000円、準会員・学生3,000円

なお、基調講演・シンポジウム・教育実践報告は、どなたでも無料でご参加いただけます。(要事前申込)

3. 大会事務局

神戸山手大学 現代社会学部観光文化学科
小槻文洋（おつき・ふみひろ）※電子メールが確実です
電子メール:taikai@jsthe.org
TEL:078-371-8000 FAX:078-371-4938

4. 大会実行委員会

委員長:小槻 文洋 (神戸山手大学)
委員:朝倉 はるみ(淑徳大学)、鈴木 涼太郎(獨協大学)、
廣岡 裕一(和歌山大学)、峯俊 智穂(追手門学院大学)、
板垣 武尊(立教大学大学院)、大島 知典(立命館大学大
学院)、澁谷 和樹(立教大学大学院)

5. その他

学会活動を広く周知し、観光ホスピタリティ教育の発展と会員増加のため、本大会は学会員以外の皆様にもご参加いただけるよう、一部プログラムを無料で一般に公開いたします(無料プログラム:2/25(土)基調講演、シンポジウム、教育実践報告。大会論文集はお渡しいたしません)。

なお、大会参加費をお支払いいただければ、どなたでもすべてのプログラムに参加いただけます(大会論文集付き)。

大会参加費:一般3,000円、学生1,000円

懇親会費:一般4,000円、学生3,000円

お申込みにあたっては、1.ご所属、2.氏名、3.メールアドレス、4.電話番号、5.参加希望プログラム、6.大会論文集希望の有無(有料参加者のみ)を明記の上、全国大会事務局あてにメールまたはFAXにてお申込み下さい。折り返し、確認のご連絡をいたします。

【2016年度総会・講演会報告】

2016年6月4日(土)に、跡見学園女子大学文京キャンパスにおいて「産官学地連携によるインターンシップとアクティブラーニング」をテーマに、2016年度総会・講演会を開催致しました。一般参加7名を含む41名でした。

基調講演では、共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生氏に「地域を支え地域に支えられる地方・小規模・新設大学の生き残りー飛び立たないグローバル人材とは?ー」というテーマでお話いただきました。

次に、篠原靖氏(跡見学園女子大学)「道の駅もてぎ」における産官学連携による観光教育の実践、小槻文洋氏(神戸山手大学)・村山慶輔氏(やまところ)「インターンシップで運命の仕事にめぐり逢う。神戸山手大学×やまところ」の2件の実践報告が行われた後、大森氏・篠原氏・小槻氏・村山氏の4者によるパネルディスカッションを、会長の小畑力人氏(追手門学院大学)をモデレーターとして行いました。

基調講演・シンポジウムの内容は、学会の機関誌『観光ホスピタリティ研究』に掲載予定です。

会場をご提供いただきました跡見学園女子大学と、運営をサポートしてくださいました同大学学部生の皆様に改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

【研究会報告】

2016年11月26日(土)15:00~17:00(場所:跡見学園女子大学文京キャンパス)にて開催された、2016年第2回研究会についてご報告します。

今回は、2名の講師を迎え、第1部と第2部に分けて研究会を開催しました。第1部では「産官学連携の手法・・・いかに、スタートさせ、継続し、拡大させるか~在日マレーシア政府観光局の事例」をテーマに、マレーシア政府観光局の徳永誠氏を講師に迎えました。

まず、マレーシア政府観光局の主催する「ルックマレーシア」プログラムの概要をご紹介いただきました。プログラム内で学生は「日本とマレーシアの明日への提言~アジアの未来を担う青年の誓い~」という課題が与えられます。その課題への答えとして、学生が異文化理解の重要性や、アジア理解の第一歩としてのマレーシア訪問の重要性を挙げたことが紹介されました。現在、日本各地の高校や大学でマレーシア研修を取り入れられています。また、いくつかの大学ではマレーシアにサテライトオフィスを開設し、日本の大学とマレーシアとの連携が進んでいることが報告されました。

第2部では「クルーズ拠点化大学、もしくは、クルーズ専任教員制の将来構想」をテーマに、一般財団法人みなと総合研究財団の田中三郎氏を講師に迎えました。講演では、日本のクルーズ産業の変遷や、日本におけるクルーズ環境の変化について説明がありました。

そのうえで、2020年までの訪日クルーズ旅客数500万人達成のためには、クルーズの産業化の必要性や、物流や造船分野のみならず、宿泊や娯楽分野などでの人材育成・研究の充実の重要性を指摘されました。

いずれの部でも質疑応答を行い、活発な意見交換が行われました。

【理事会報告】

<2016年度 第5回定例理事会>

(1)日時:2017年1月28日(土)13:00~15:00

(2)場所:跡見学園女子大学・文京キャンパス M2502

(3)出席者:鈴木勝会長、宍戸副会長、朝倉理事、小槻理事、野口理事、廣岡理事、藤田理事、古本理事、峯俊理事、村上理事、千葉幹事、板垣幹事、澁谷幹事
欠席者:浅岡副会長、鈴木涼太郎理事、高橋理事、橋本

理事、安島理事、海老澤監事、難波監事、永田幹事、大島幹事（委任状5通）

(4) 議事

1) 入退会審査

- 資料に基づいて、正会員1名（田中掃六氏）の退会が認められました。
- 審査後の会員数は167名（正会員153名、準会員10名、特別会員1団体、名誉会員3名）となりました。

2) 第16回全国大会企画

- 開催日時および場所の確認がされました。日時は2017年2月25日（土）および26日（日）、場所は神戸山手大学です。なお、利用施設は懇親会を除き同大学4号館です。
- プログラムのタイムテーブルが決定されました。25日は、基調講演者の予定（14:00～15:00）に合わせ、研究・教育実践発表を第1部（13:10～13:50）と第2部（16:30～18:00）に分けることとなりました。シンポジウムの開催は15:10から16:30です。
- 基調講演のタイトルは大会テーマ「観光立国ニッポン 訪日旅客4,000万人&オリパラ2020—観光ホスピタリティ教育は何をすべきか—」とし、講演では具体的な提言を依頼することが了解されました。
- シンポジウムのタイトルが「大学における観光ホスピタリティ教育の新たな取り組み」に決定しました。パネリストの人は小槻理事が行うことが確認されました。
- 研究・教育実践発表6件の確認がされました。なお、第1部に2件、第2部に4件を割り振りました。
- 26日に行うワークショップのテーマが検討され、議論の方向性がより明確になるものにしました。その結果、「ゼミナール活動の成果をいかに設定するか」「アクティブラーニング・グループ学習における課題」「長期インターンシップにおける課題」に決定しました。また、ワークショップでも話題提供を行うことが了解されました。
- 学生補助スタッフの協力費が承認されました。25日は1人5,000円、26日は1人3,000円です。
- JTB総合研究所への特典（出版物などの展示・販売その他）が承認されました。
- 各プログラムの司会者について検討されました。研究・教育実践発表は鈴木涼太郎理事に打診することとなりました。その他の司会については鈴木会長に一任することが了解されました。
- 今後のスケジュールについて、全国大会の最終案内および参加葉書の送付を2月上旬にすることが確認されました。また、参加申込み先および問合

せ先が了解されました。会員の参加申込み先は峯俊理事、会員の問合せ先および一般の参加申込み・問合せ先は小槻理事です。

3) 2017年度総会・講演会（日程・場所など）

- 2017年6月10日（土）、東海大学での開催が提案されました。
- 次回の理事会で日程および場所の決定をすることとなりました。

4) 総務委員会

- 古本理事より総務委員会の2月から3月にかけての業務について説明がありました。

5) 広報委員会

- 野口理事より会員増強用チラシの作成について説明がありました。会員と観光関連学部・学科に配布することが提案され、作成することが決定されました。
- 大学院生を対象とした特例措置の検討がされました。大学院生向けのチラシ作成、初年度の年会費免除または減額、入会申込時の推薦者記入の免除が提案されました。
- メーリングリストに関する、総務委員会と広報委員会の役割分担が確認されました。
- その他、J-STAGEへの対応、次号ニューズレター発行に関する説明がありました。

6) 新規事業WG

- 小槻理事より機関誌第10号の発行および第11号の刊行計画について説明がありました。

7) 役員会の委員会等の分担

- 宍戸副会長より進捗状況についての説明がありました。

8) 研究会（2017年度第1回分）について

- 2017年5月13日（土）の開催が提案されました。なお、会場として、村上理事に跡見学園女子大学での開催の打診を行いました。
- テーマとして、「オリンピック・パラリンピックと観光教育」が提案され、次回理事会で検討することとなりました。

9) その他

- 鈴木会長より、愛知県観光局長からの観光研究者データベースへの登録依頼について説明がありました。ニューズレターやメーリングリストで案内することとなりました。
- 次回理事会の開催が5月13日（土）に決定しました。なお、会場として跡見学園女子大学文京キャンパスでの開催を検討することになりました。

(以上)

【機関誌編集委員会】

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第10号発行

2017年2月15日に第10号を発行いたしました。

特別寄稿をご執筆くださいました岡本伸之先生、教育実践報告の投稿者をはじめ、書評、全国大会、総会の報告など、ご執筆くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第11号

＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育（英語名：Annals of Tourism & Hospitality Education）』の投稿原稿を募集いたします。

観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校はますます増加しております。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。また、編集委員会から原稿執筆などをお願いした際には、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

第11号の原稿締切日：2017年4月30日（日）

原稿投稿先：投稿申込書1部と審査用原稿1部をPDFあるいはワードのファイルにて（PDFが望ましい）、本学会本部事務局（jimu@jsthe.org）にメールで送付。投稿申込書は本学会ホームページよりダウンロードください。

【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。

ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

編集・発行人 野口洋平（杏林大学）

E-Mail : noguchi@ks.kyorin-u.ac.jp

FAX : 0422-47-8077（大学共用）

